

JAバンク新潟における地域密着型金融の取組状況（平成 29 年度）

JAバンク新潟（県下 24 JA と新潟県信用農業協同組合連合会）では、農業と地域社会に貢献するため、「JAバンク新潟中期戦略（平成 28～30 年度）」に基づき、地域密着型金融の推進に取り組んでおります。

平成 29 年度の地域密着型金融の取組状況について取りまとめましたので、ご報告いたします。

＜目 次＞

1	農山漁村等地域の活性化のための融資をはじめとする支援	・・・・・・・・ P 2
2	担い手の経営のライフサイクルに応じた支援	・・・・・・・・ P 4
3	経営の将来性を見極める融資手法をはじめ、担い手に適した資金供給手法の提供	・・・・・・・・ P 8
4	農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域育成への貢献	・・・・・・・・ P 9

1 農山漁村等地域の活性化のための融資をはじめとする支援

J Aバンク新潟は、地域における農業者との結び付きを強化し、地域を活性化するため、次の取組みを行っています。

(1) 農業融資商品の適切な提供・開発

J Aバンク新潟は、各種プロパー農業資金を提供するとともに、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金の取扱いを通じて、農業者の農業経営と生活をサポートしています。

平成30年3月末時点のJ Aバンク新潟の農業関係資金残高^(注1)は76,809百万円(うち農業経営向け貸付金38,820百万円)、日本政策金融公庫等の受託貸付金^(注2)残高は20,005百万円を取り扱っています。

(注1) 農業関係資金とは、農業者および農業関連団体等に対する貸出金であり、農業生産・農業経営に必要な資金や、農産物の生産・加工・流通に関係する事業に必要な資金等が該当します。

(注2) J Aバンク新潟が農業者の窓口となり、日本政策金融公庫などの貸付金の受託取扱いを行っています。

【営農類型別農業資金残高】 (単位：百万円)

	平成30年3月末現在
農業	38,820
穀作	19,548
野菜・園芸	2,621
果樹・樹園農業	992
工芸作物	140
養豚・肉牛・酪農	1,641
養鶏・鶏卵	242
養蚕	-
その他農業	13,632
農業関連団体等	37,988
合 計	76,809

(注)

- 1 「その他農業」には、複合経営で業種が明確に位置づけられない者および農業サービス業が含まれています。
- 2 「農業関連団体等」には、J Aや全農とその子会社等が含まれています。

【資金種類別農業資金残高】 (単位：百万円)

種 類	平成30年3月末現在
プロパー農業資金	63,163
農業制度資金	13,646
農業近代化資金	5,687
その他制度資金	7,958
合 計	76,809

(注)

- 1 「プロパー農業資金」とは、J Aバンク原資の資金を融資しているものをいいます。
- 2 「農業制度資金」は、①地方公共団体もしくは日本政策金融公庫の資金をJ Aバンク新潟が転貸で融資するもの、②地方公共団体等が利子補給等を行うことでJ Aバンク新潟が低利で融資するものを対象としています。
- 3 「その他制度資金」には、農業経営改善促進資金(スーパーS資金)や農業経営負担軽減支援資金などが該当します。

【農業資金の受託貸付金残高】 (単位：百万円)

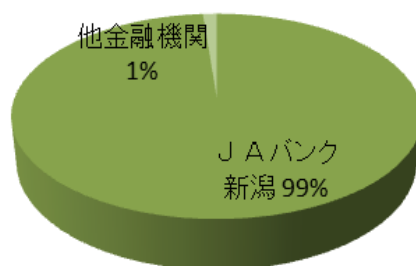
種 類	平成30年3月末現在
日本政策金融公庫資金	20,005
その他	0
合 計	20,005

(注) J Aバンク新潟では、主にJ Aを窓口として、日本政策金融公庫資金の受託貸付金を取り扱っています。

J Aバンク新潟は主要な農業関係の制度資金である、農業近代化資金の取扱いにおいてトップシェアとなっています。

【新潟県の農業近代化資金の取扱いシェア】

(平成29年12月末時点)



J Aバンク新潟
農業近代化資金残高 5,007 百万円

(2) 担い手のニーズに応えるための取組み

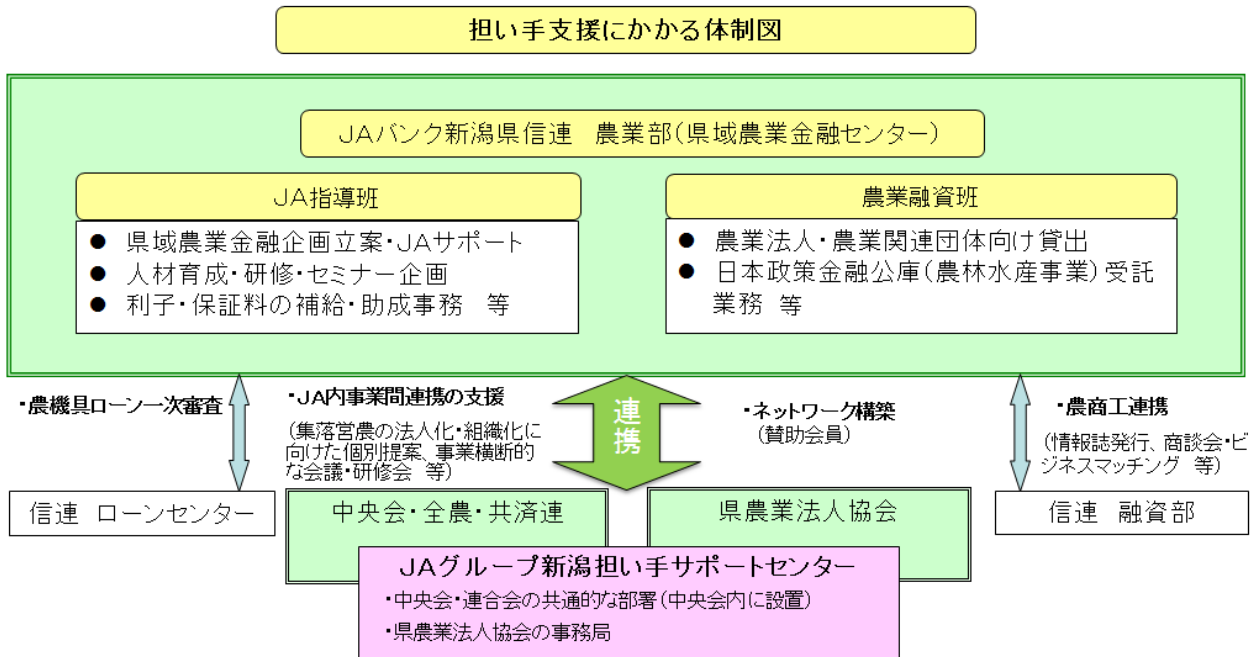
J Aバンク新潟では、地域の農業者のニーズに応えるため、様々な取組みを行っています。

信連では、農業部を「県域農業金融センター」と位置づけ、J Aの指導・サポート機能と農業法人等への融資相談機能を併せ持つことで、一元的な取組みを進めています。J Aの体制整備や人材育成を支援するとともに、J Aと連携した協調融資などにも取り組んでいます。

県下24 J Aでは、担い手への訪問・資金提案活動を中核的に担う「農業融資相談員」をJ A本支店(所)に193名配置し、また、農業融資の実務を統括する「担い手金融リーダー」を40名配置しています。

農業融資相談員等の相談対応力向上を目的に、J Aバンク独自の農業融資資格制度である「J Aバンク農業金融プランナー」の資格取得を進めており、県下合計で461名が取得しています。また、日本政策金融公庫が実施主体となる「農業経営アドバイザー研修・試験」にも取り組み、県下合計で56名が合格しています。

また、J Aが総合力を発揮し農業者の多様なニーズに応えていくため、信連を含めた中央会・連合会の共通的な部署である「J Aグループ新潟担い手支援室(略称：担い手サポートセンター)」が中心となり、集落営農の法人化・組織化に向けた個別提案や、事業横断的な会議・研修会の開催等を通じ、J A内事業間連携の強化を支援しています。



2 担い手の経営のライフサイクルに応じた支援

JAバンク新潟は、担い手をサポートするため、ライフサイクルに応じて、次の取り組みを行っています。

(1) 「にいがた農業応援ファンド」による助成

JA自己改革で掲げる3つの基本目標（農業者の所得増大・農業生産の拡大・地域の活性化）を具体的に実現していくため、平成28年度から平成30年度の3年間における担い手への支援パッケージとして「にいがた農業応援プログラム」を展開しています。

その中の施策の一つである「にいがた農業応援ファンド」では、直面する課題の克服にチャレンジする担い手（個人および法人）のあと一步を応援するため、農業生産の拡大、農産物の加工・流通・販売の促進および農業を通じた、地域活性化に必要な資金の一部を助成しています。



「農機具等の取得応援事業を活用して導入した農機具」

【にいがた農業応援ファンド取扱実績】

(単位：件、百万円)

事業名	平成29年度			
	申請件数	申請額	採択件数	採択額
農機具等の取得応援事業	265	114	265	114
加工・流通・販売の促進応援事業	42	29	32	21
「JAグループ新潟 営農・経済改革プラン」推進事業	228	135	136	66
親元就農応援事業	50	15	45	13
合計	585	295	478	215

(2) 次世代農業者の育成支援

J Aバンク新潟では、新規就農者の経営と生活をサポートするため、「青年等就農資金」および「新潟県新規参入者経営安定資金」を取り扱っているほか、独立新規就農者や研修受入先を対象とした「J Aバンク新規就農応援事業」や、J Aバンク新潟独自の「親元就農応援事業」を展開しています。

【新規就農者をサポートする資金の取扱実績】 (単位：件、百万円)

資金名	平成 29 年度		平成 30 年 3 月末 残高
	実行件数	実行金額	
青年等就農資金	20	151	282
就農支援資金	—	—	38
合 計	20	151	320

(注) 平成 26 年 4 月 1 日付の法改正により、就農支援資金の新規取扱いは終了となり、新たに青年等就農資金が創設されました。

【J Aバンク新規就農応援事業取扱実績】 (単位：件、百万円)

事業名	平成 29 年度	
	助成件数	助成金額
新規就農者営農支援事業	50	10
新規就農研修支援事業	18	6
合 計	68	16

(3) 6次産業化・農商工連携の推進

J Aバンク新潟は、農林水産業の事業力・収益力強化のため、商談会・ビジネスマッチングによる販路拡大支援等の農商工連携に取り組んでおり、「農業者と産業界の架け橋」として多様な機能を発揮しています。



【商談会】

ビジネスマッチングを通じた農商工連携および6次産業化の推進を目的として、各地域で商談会を開催しました。

〈平成 29 年度 商談会開催状況〉

商談会名	開催日	主催者	参加団体数	総来場者数	内容（成約状況等）
にいがた 食・環境・健康の展示商談会	平成 29 年 5 月 10 日	(株)第四銀行	133 団体	約 1,800 名	取引先 23 先が参加 ※うち、8 先は個別商談会へのみの参加
うまさぎっしり新潟 食の大商談会	平成 29 年 9 月 8 日	NICO・新潟県・新潟県内金融機関ほか	110 団体	1,423 名	9 取引先の出展支援
JA・JF グループ 北信越商談会	平成 30 年 1 月 23 日	JA バンク JF マリンバンク	28 団体 (セラー)	48 団体 (バイヤー)	セラー5 団体、バイヤー6 団体を招致

【農業法人・一般企業 交流セミナー】の開催

農業法人と商工業者の交流促進を目的として、平成 30 年 3 月に講演会および交流交歓会を行うセミナーを開催しました。

【Sole!にいがた】

農商工連携を促進する一環として、フリーペーパー形式の情報誌「Sole（そーれ）!にいがた」を平成22年7月に創刊、以来年4回発行しています。

この情報誌では、県内の農業や産業に関する幅広い情報の提供により、「農と食」を基軸としたコミュニケーションを通して、農業生産者・JAグループと地域の企業、さらには広く地域の皆さまとの結び付きを強め、新たなビジネスチャンスを創出するきっかけづくりを目指しています。

※県内のJA窓口や直売所、道の駅、スーパー等で無料配布しています。



(4) 生産者と消費者をつなげる場の設定

JAバンク新潟は、新潟県生活協同組合連合会、新潟県森林組合連合会、新潟県漁業協同組合連合会、新潟県酪農業協同組合連合会、JA新潟中央会、JA全農にいがた、JA共済連新潟との共催により、「第19回協同組合まつり」(平成29年10月22日、新潟市産業振興センター)を開催し、6,703名の方にご来場いただきました。

会場では県内農畜産物等の紹介・直売や県内農産物を材料とした食事の提供、チャリティーオークション、ステージイベント等を実施し、好評を博しました。



(5) 講演会・セミナー等の開催

JAバンク新潟では、農業法人等の経営安定化支援や参加者同士の情報交換、ネットワークづくりの場を提供することなどを目的として、セミナーや個別相談会を開催しています。また、融資のお取引先等を招き講演会やセミナーを開催し、異業種間の交流を促進しています。

【平成29年度 講演会・セミナー等開催・参画状況】

講演会・セミナー名	開催日	主催者	対象参加者	参加者数	内容
第30回信連融和会定例総会講演会	平成29年7月18日	信連	信連融資取引先	72社	演題：「理念と現場力による常識はずれの大改革」 講師：元 キリンビール(株) 代表取締役副社長 田村 潤 氏
平成29年度経済・金融セミナー	平成29年11月8日	信連	信連融資取引先	55社	演題：「2018年の内外経済・金融市場の見通し」 講師：野村證券(株) 金融経済研究所 経済調査部 日本経済担当 チーフエコノミスト 美和 卓 氏
農業法人・一般企業 交流セミナー	平成30年3月2日	信連	信連融資取引先	14社	演題①：「明るく！楽しく！儲かる農業！！」 講師：(株)ひらせいファーム代表取締役社長 (株)ひらせいホームセンター 取締役副社長兼営業本部長 清水 泰成 氏 同 商品第四部 次長 小池 洲太 氏 演題②：「商品の魅力を消費者へ・バイヤーへ 届ける・伝える情報発信」 講師：(株)第一印刷所 常務取締役 阿部 正喜 氏 同 企画開発部 企画推進課 課長代理 寺岡 彩 氏 同 営業第1部 営業4課 主任 笹川 達貴 氏
第11回農業法人経営者セミナー	平成30年2月15日	信連	県下農業法人およびJA等	175名	演題①：「農業の労務管理と人材育成～人材の定着率アップに向けて～」 講師：キリン社会保険労務士事務所 所長 入来院 重宏 氏 演題②：「労働環境の改善および人材の確保・育成に向けた取組みについて」 講師：(株)関東地区昔がえりの会 代表取締役社長 小暮 郁夫 氏
労務管理の高度化や人材の確保・育成に向けた個別相談会	平成30年3月8日	信連	県下農業法人	4法人	1先あたり75分の持ち時間の中で、講師と人事・賃金制度の策定、社員のモチベーション向上の取組み、人材定着の手法等についての相談を実施した。

(6) 被災者等への支援

J Aバンク新潟では、各種自然災害の被災者を支援するため、災害対策窓口を設置したほか、災害対策資金の創設や個別融資先の経営状況に応じて償還条件の緩和等に対応しました。

取組事例	JA名	内 容	(単位:件、百万円)	
			件数	貸付実行金額
平成30年雪害等復旧支援資金	J A新潟みらい	降雪ならびに暴風により被害を受けた農業者に対し、低利の資金を創設しました。	1	0
平成29年度農業収入減少対策融資	J A佐渡	天候不順等による水稲・果樹の収入減少の被害を受けた農業者に対し、低利の資金を創設しました。	19	29
・平成29年 J A越後ながおか緊急農業経営安定対策資金 ・平成29年台風災害対策資金	J A越後ながおか	日照不足や長雨および台風による収量低下や冠水被害等の被害を受けた農業者に対し、低利の資金を創設しました。	14	25
平成29年産米特別対策資金	J A越後さんとう	低温や長雨による収量低下等の被害を受けた農業者に対し、低利の資金を創設しました。	15	31
平成29年度産米・切花特別対策資金	J A北魚沼	水害および天候不順による米や切花の収量低下や品質低下等の被害を受けた農業者に対し、低利の資金を創設しました。	11	14
平成29年度緊急農業経営支援資金	J Aしおざわ	日照不足や長雨による収量低下および等級低下の被害を受けた農業者に対し、低利の資金を創設しました。	9	28
平成29年度緊急農業経営安定対策資金	J A津南町	水天候不順による収量低下や品質低下等の被害を受けた農業者に対し、低利の資金を創設しました。	25	44
平成30年豪雪災害等復旧支援資金	J Aバンク新潟	豪雪災害等により被害を受けた農業者に対し、J Aグループ新潟からの利子補給による低利資金を創設しました。	-	-
合 計			94	174

(7) 経営不振農家の経営改善支援

J Aバンク新潟では、負債整理資金の対応等にあたり再生計画の策定支援や経営指導など、農業者の経営改善支援に取り組んでいます。

【平成29年度 農業者の経営改善支援等の取組み実績】

(単位:先)

	期初経営改善支援取組先 A	Aのうち再生計画を策定した先数 a	Aのうち期末に債務者区分がランクアップした先数 b	Aのうち期末に債務者区分が変化しなかった先数 c	再生計画策定率 = a / A	ランクアップ率 = b / A	
正常先①	12	7		7	58.3%		
要注意先	うちその他要注意先②	69	27	13	47	39.1%	18.8%
	うち要管理先③	4	1	0	4	25.0%	0.0%
	破綻懸念先④	34	17	11	23	50.0%	32.4%
	実質破綻先⑤	38	15	5	33	39.5%	13.2%
	破綻先⑥	0	0	0	0	—	—
	小計(②～⑥の計)	145	60	29	107	41.4%	20.0%
	合計	157	67	29	114	42.7%	18.5%

(注) 期初経営改善支援取組先および債務者区分は平成30年3月末時点のものです。

3 経営の将来性を見極める融資手法をはじめ、担い手に適した資金供給手法の提供

J Aバンク新潟では、担い手の経営実態やニーズに適した資金の提供に努めています。

(1) アグリビジネス投資育成株式会社等によるファンドの活用

J Aバンク新潟では、お客さまの資金調達手段の一つとして、農業法人育成のための資本供与の仕組みである「アグリシードファンド」や「担い手経営体応援ファンド」による出資を提案しています。

平成 29 年度には、県内農業法人の資本調達ニーズに対応するため、「アグリシードファンド」で 2 先、17 百万円の出資を実施し、出資総額は 10 先、84 百万円となりました。

【平成 30 年 3 月末農業者向けファンド取扱実績】

(単位：先、百万円)

ファンド名	取扱実績	
	先数	出資額
アグリシードファンド	8	49
担い手経営体応援ファンド	2	35
合 計	10	84

(2) 負債整理資金による経営支援

J Aバンク新潟では、農業者の経営再建を支援するため、負債整理資金を取り扱っています。

【平成 29 年度 負債整理資金の貸出実績】

(単位：件、百万円)

資金名	平成 29 年度 実行件数	平成 29 年度 実行金額	平成 30 年 3 月末 残高
農業負担軽減支援資金	5	52	1,456
畜産特別資金	0	0	72
土地改良負担金対策資金	4	105	585
農業経営負担軽減支援資金	0	0	61
農家負担軽減支援特別資金	0	0	2
その他	-	-	56
合 計	9	157	2,234

(注) 1 農業経営者負担軽減支援資金は、営農に必要な資金を借り受けたために生じた負債の借換えのための制度資金であり、J Aなどの融資機関において取り扱っています。

2 畜産特別資金は、過去の負債の償還が困難な畜産経営者に対する長期・低利の借換え資金であり、J Aなどの融資期機関において取り扱っています。

4 農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域育成への貢献

J Aバンク新潟では、地域と農業者の結び付きを強化し、地域を活性化するため、また地域への社会貢献のため、次の取組みを行っています。

(1) にいがた農業応援定期貯金「ほほ^{えみ}笑味」の取扱い

県下 24 J Aでは、個人の方向けに、新潟県内の J A直売所や A コープ等で利用できるクーポン券を特典とした「にいがた農業応援定期貯金(ほほ笑味)」を販売しました。

なお、販売期間は平成 29 年 5 月 15 日～平成 29 年 10 月 31 日でしたが、好評により早期に募集総額に達したため、8 月 25 日をもって販売を終了しました。

クーポン券を使って、新潟県の豊かな大地で育った農作物を購入いただき、そのおいしさを実感していただくことで、J A利用者の満足度をより一層高めるとともに、県産農畜産物の消費拡大、新潟県農業のさらなる発展に貢献していきます。

(2) J Aバンク食農教育応援事業の展開

J Aバンク新潟では、食農教育を通じ、子どもの農業に対する理解の深耕を図り、地域の発展に貢献するため、「新潟県 J Aバンク食農教育応援事業」を展開しています。

主な取組みとして、J A等による子どもを対象とした食農教育活動への助成事業や、補助教材「農業とわたしたちの暮らし」(小学校高学年向け、特別支援学校生向け)などの無償配布を実施しています。小学校高学年向け補助教材は県下の小学校 469 校へ 21,020 部、特別支援学校生向け補助教材は県下の小学校・特別支援学校 17 校へ 144 部を贈呈し、各学校において授業等に活用されています。

また、県下 J Aでは、下表のような食農教育にかかる活動に取り組み、平成 29 年度においては、県内全 24 J Aが当事業を活用して食農教育活動を実施しました。

各 J Aが創意工夫し、J A自己改革の目標の一つである「地域の活性化」の取組みとして、地域に根差した食農教育活動に力を注いでいます。

【新潟県 J Aバンク食農教育応援事業による活動内容】

J A名	活動名	活動内容
J A新潟市	農業体験作文コンクール	小・中学生・特別支援学校生を対象に、農業体験学習「学校教育田」の実体験に基づいた作文コンクールを実施。
J Aかみはやし	J A親子たんけん隊	管内の親子を対象に、J Aの野菜出荷場や農機センター等をスタンプラリー形式で回ってもらう J A施設の探検を実施。
J Aにいがた岩船	小学校学校田	小学生を対象に、生産者と共同で田植え・稲刈り体験の補助と教育指導を実施。
J A北蒲みなみ	出前授業	保育園・幼稚園児を対象に、食農についての紙芝居やクイズを実施。
J Aささかみ	学童農園	小学生を対象に、育苗・田植え・草取り・生き物調査・稲刈り・脱穀・精米等田植えから収穫まで一連の農業体験をしてもらう水稻作業体験スクールを実施。
J A北越後	田植え体験	園児・小学生親子を対象に田植え体験を実施。
J A胎内市	親子農業体験	園児・小学生親子を対象に田植え・稲刈り体験を実施。
J A新潟みらい	あぐりスクール	小学生を対象に、年 5 回にわたり農業体験、収穫体験、調理実習などで農業に関する総合的な体験学習を実施。

J A名	活動名	活動内容
J A新津さつき	昔ながらのお米づくり体験	園児・小学生親子を対象に、新潟市有形民俗文化財「満願寺はさ木並木」を使い、手植えで行う稲作体験を実施。
J A越後中央	農業体験スクール	保育園児、小学生を対象に、学校田、教育畑の農業体験学習を実施。
J A佐渡	地元食材の価値再発見	小学生を対象に、総合学習授業の中で J A職員による佐渡米の生物多様性の取組みと、地元農家の加工品の取組みについて出前授業を実施。
J A羽茂	さつまいも掘り体験	園児を対象に、地域の転作田にてさつまいも掘り体験を実施。
J Aにいがた南蒲	支店協同活動	園児・小学生親子を対象に、食の大切さや食料を生産する農業の素晴らしさを伝えることを目的とした農業体験や調理実習を実施。
J A越後ながおか	小学生向け料理本配布	小学生を対象に、J A独自で作成した料理本の作成・配布を実施。
J A越後さんとう	サマースクール	小学生を対象に、農産物の収穫体験と収穫した食材を使った調理実習を実施。
J A越後おぢや	農業体験学習出前授業	小中学生を対象に、農業体験の出前授業を実施。
J A北魚沼	食農教育図画コンクールの開催	小学生を対象に、「地元のお米・野菜・ぼく・わたし」をテーマとして、図画コンクールを実施。
J Aしおざわ	あぐりスクール	小学生を対象に、畑の作付・収穫体験、調理実習、お米の勉強会など食と農の大切さを学んでもらう「あぐりスクール」を実施。
J A魚沼みなみ	グリーンスクール	小学生を対象に、農作業体験や料理教室などを実施。
J A十日町	料理教室	園児・小中学生親子を対象に、地元農産物を使った料理教室を実施。
J A津南町	どろんこ学習	小中学校が行っている食農教育活動(花卉・野菜栽培学習、学校田)に対して J Aが指導、活動費助成を実施。
J A柏崎	親子収穫・ジャム作り体験	管内の親子を対象に、農家の方の畑へ行き、玉ねぎ収穫とイチゴ狩りを行い、その後、直売所の調理場でイチゴジャムと季節の野菜スープ作りを実施。
J Aえちご上越	ちゃぐりん道場	小学生を対象に、枝豆栽培や収穫等の農業体験や料理教室を実施。
J Aひすい	大豆栽培と豆腐作り体験	小学生を対象に、大豆の栽培と収穫した大豆を使った豆腐作り体験を実施。
J A新潟中央会	第 42 回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール	次代を担う子供たちに農業の多面的機能とごはん食の重要性等について理解を深めてもらうため、作文と図画コンクールを実施。



「J A新潟みらい あぐりスクールの様子」

(3) 文化的・社会的貢献活動

J Aバンク新潟では、地域社会の一員として、文化、スポーツ、社会福祉、環境などの分野で幅広い地域貢献活動を展開しています。

- 「エコ定期貯金」の受入を通じた、環境保全団体への寄付金の贈呈
平成 23 年度より農業の振興を通じた「環境保全」の推進の一環として実施している「エコ定期貯金」は、環境意識が高まるなか、貯金の受入を通じてお客さまの間接的な環境保護への参加を支援することで、郷土の自然環境保護に貢献することを目的としています。

多くの皆さまから趣旨にご賛同いただいた結果、平成 29 年度は 1,120,954 円を公益社団法人にいがた緑の百年物語緑化推進委員会に寄付することができました。

- 公益信託「J Aバンク新潟県信連創立 50 周年記念・ホームヘルパー支援基金」
新潟県内の社会福祉法人やボランティア団体等を助成対象者とし、ホームヘルパーの活動および当該活動を支援する設備等に対し助成を行っています。

- エコキャップ運動への参加
ペットボトルのキャップを集めて世界の子どもたちにワクチンを届ける活動に参加しています。

- 環境保全への取組み
ビル内の節電対応や、「クールビズ」「ノー残業デー」の実施など、環境保全を意識した取組みを積極的に行っています。

また、地球温暖化防止や、地域の森林整備等の促進、豊かな自然環境の保全を支援することを目的にカーボン・オフセットにも取り組み、平成 29 年度は「にいがた農業応援定期貯金（ほほ笑味）」のクーポン券に、調理時に排出する一食分の CO₂ 吸収量を付与することでカーボン・オフセットを実施しました。

※カーボン・オフセットとは暮らしの中で出てしまう CO₂ を森林整備等 CO₂ 吸収活動の支援により埋め合わせることです。

- 「スポーツ教室・食育教室」への特別協賛
「スポーツを通じた青少年の健全育成」の趣旨に賛同し、アルビレックス新潟（サッカー）および新潟アルビレックス BB（バスケットボール）が開催する「スポーツ教室・食育教室」への特別協賛を行っています。



「新潟アルビレックス BB の選手による
バスケットボール教室の様子」

○ 「松竹大歌舞伎」公演への特別協賛

地域の文化振興を応援するため、公益財団法人新潟市文化振興財団が主催する「松竹大歌舞伎」公演への特別協賛を行っています。

なお、公演には日本の伝統文化に触れる機会を提供することを目的に、新潟県内の留学生ならびに高校生を招待しており、平成 29 年度は 147 名の方からご鑑賞いただきました。

○ 役職員によるボランティア活動への参加

新潟市が主催する地域清掃活動に毎年参加し、地域とのかかわり合いを大切にしています。

また、新潟県赤十字血液センターのご協力により、団体献血を年 2 回実施しています。

○ 地域行事への参加

「新潟まつり大民謡流し」等の地域行事に地域の一員として積極的に参加し、地域の皆様との交流を大切にしています。



「新潟まつりの様子」

以 上